



MIRAI
REHABILITATION
HOSPITAL

みらいを創る・みらいに繋ぐ広報誌

MIRA★REHA

No.4



特集

開院1年さらなる医療体制充実へ

地域包括ケア病棟50床に増床／Orinasu Cloud導入
内視鏡検査体制の強化

乳がん検診実施／絵本専門士による絵本を楽しむ会

新入職医師紹介／外来担当表／学会発表など活動報告

リレー職員紹介／リハ★飯／回復期リハ病棟実績データ／アクセス



みらいリハビリテーション病院

MIRAI REHABILITATION HOSPITAL

平日月曜日から金曜日と土曜日にも診療しています。9:00～12:30/14:00～17:30

地域包括ケア病棟50床に増床

看護部 地域包括ケア病棟を拡充

当院では2026年3月より、地域包括ケア病棟をこれまでの24床から50床へと拡充いたしました。これにより、急性期治療を終えた患者さまが、在宅復帰に向けて安心して療養・リハビリに取り組める環境を、より多くの方に提供できるようになります。

看護部では、責任と継続性のある看護の実践を通じて、患者様一人ひとりの生活背景や思いに寄り添い、きめ細やかな支援を行っています。

今後も多職種との連携を深めながら、地域



に根ざした包括的な医療・看護の提供を目指し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現に貢献してまいります。

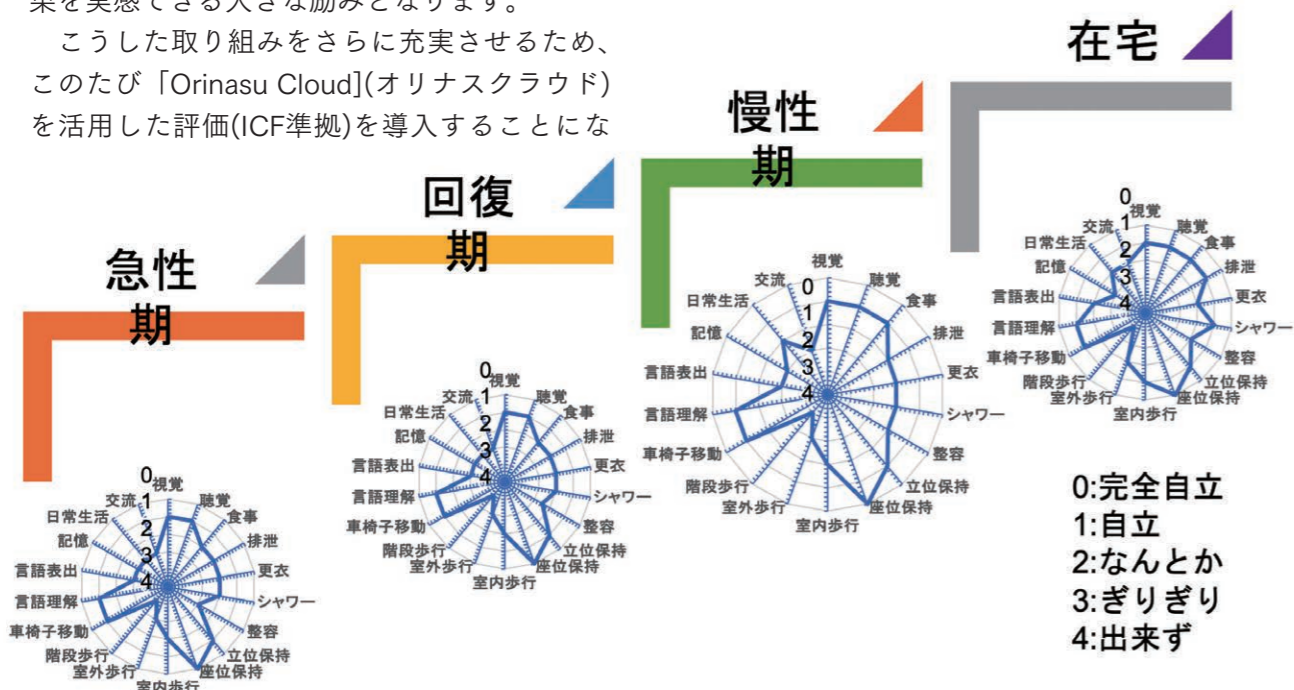
看護部 Orinasu Cloudを活用、看護可視化へ

2026年の新体制に向け、当院では患者様の「みらい」に寄り添う看護をより一層大切にしていきます。患者様が思い描く“なりたい自分”に向かって、私たち医療者と共に目標を設定し、その達成度を振り返りながら進んでいくことは、患者様・ご家族の安心や満足につながるだけでなく、看護師にとってもケアの成果を実感できる大きな励みとなります。

こうした取り組みをさらに充実させるため、このたび「Orinasu Cloud」(オリナスクラウド)を活用した評価(ICF準拠)を導入することにな

りました。ICF*の視点で生活機能を多角的に捉え、日々の変化を“見える化”することで、患者様の強みや可能性を共有しやすくなり、チーム全体で一貫した支援が可能となります。

これからも患者様一人ひとりの未来に寄り添い、自分らしい生活の再構築を支える看護を実践してまいります。



■急性期から在宅まで共通の評価尺度を用いて患者さま・施設利用者さまの自立を支援 *鹿児島医療ITセンターHPより引用

※ICF(国際生活機能分類)は、WHOが2001年に採択した、健康状態や生活機能に関する国際的な枠組み。病気そのものだけでなく、「その人がどう生きるか(生活機能)」という視点と、それを支える環境因子を包括的に捉えるモデル

消化器内科 内視鏡検査の体制を強化



消化器内科では(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓等)にわたり診療・治療を行っています。当院では消化管(食道～十二指腸・大腸)を主体に診察を行っています。その中でも内視鏡検査(胃カメラ・大腸カメラ)に力を入れています。

ところで、皆さんは「がん」について、どのようなことを知っていますか？国立がん研究センターの統計によると、我々日本人が一生の内に「がん」と診断される確率は男性：63.3%、女性：50.8%と男女ともに2人に1人は罹る、また「がん」で死亡する確率は男性：24.4%と4人に1人、女性：17.2%と6人に1人と報告されています。

その中で別表にあるように、罹患数・死亡数の順位はトップ5の中に消化器系のがんが多く含まれています。中でも罹患数の順位において胃がんは男女ともに4位、大腸がんは男女ともに2位。死亡数の順位において胃がんは男性：3位・女性：5位、大腸がんは男性2位・女性：1位というのは少々驚かれるのではないのでしょうか。

ただ、胃がん・大腸癌は初期の段階で発見・

治療できれば、5年生存率は両がんともに90%を越えます。そのため当院では「早期発見・早期治療」が非常に重要であると考えており、前述の通り内視鏡検査に力を入れるようにしています。

内視鏡検査は胃カメラ・大腸カメラとも柔らかいスコープというものを胃カメラでは口から、大腸カメラでは肛門から挿入します。その後胃カメラでは食道～十二指腸、大腸カメラでは大腸(結腸と直腸)を内側から直接観察していきます。使用している機器は最新の内視鏡システム(EVIS X1(Olympus)、NBI/TXI、高精細モニター)で、観察した画像はリアルタイムにモニターで確認することができ、必要に応じて生検(組織の一部を採取し、病理検査に提出すること)やポリープ切除(日帰り・入院の両方に対応しています)等を行うことが可能です。

当院では日本消化器病学会認定「消化器病専門医」および日本消化器内視鏡学会認定「消化器内視鏡専門医」がおり、消化器領域の診療に加え質の高い胃・大腸内視鏡検査、診断を心がけています。また、内視鏡検査時は鎮静剤等を使用することが可能で、より苦痛の少ない検査を皆様に提供することが可能と考えています。最後に消化器内視鏡検査は体の内側を直接観察できる数少ない検査で、定期的に受けていただくことで「早期発見・早期治療」ができ、健康寿命の延伸につながるものと思っています。検査等に対して不安を抱いている方もいらっしやるとは思いますが、まずはお気軽に受診してみてください。

内科・消化器内科医師 家守 雅大

がん罹患数の順位(2021年)

	1位	2位	3位	4位	5位	
総数	大腸	肺	胃	乳房	前立腺	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸6位
男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸2位、直腸7位

がん死亡数の順位(2024年)

	1位	2位	3位	4位	5位	
男女計	肺	大腸	膵臓	胃	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸7位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸7位
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸10位

固定チームナーシング研究会 「第17回鹿児島地方会」

宮内 穂

固定チームナーシング導入と今後の取り組み
～やりがいのある看護の実践をめざして～

第30回日本基礎理学療法学会学術大会

平田 晃士

歩行時の関節角度に基づいた関節モーメントの推定

第6回鹿児島県ブロック地区症例検討会

慶越 栄児

AFO 歩行で内側ホイップが著明に出現した患者に対し、
適切な装具を選択したことで、歩行非対称性が軽減した一症例

リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪2025

田中 精一

当院回復期リハビリテーション病棟における早出介入効果

第8回日本理学療法管理学会学術大会

田中 精一

当院リハビリテーション部における転倒予防対策
—視覚的介入とチェックポイントによる転倒予防対策の効果検証—

第9回日本循環器理学療法学会学術大会

山口 恭人

外来心臓リハビリテーション患者の身体活動量と身体機能の関係

回復期リハビリテーション病棟協会 「第47回研究大会」

慶越 梨乃

Welwalk開始時期による歩行能力および装具作製に及ぼす影響

第39回鹿児島県理学療法士学会

田中 精一

当院における実績指数予測シートの運用について(第1報)
～退院時FIM得点・入院日数の差異の検証～

小川 真輝

歩行練習中の随意運動助型電気刺激が肩関節亜脱臼に与える影響
—脳卒中片麻痺患者の一症例—

吉永 竜巳

破局的思考や歩行の自己効力感低下が強くみられる
TKA術後症例に対して患者教育と理学療法を併用した1症例:症例報告

豊見本 数磨

重症片麻痺患者におけるBMIとWWを用いた機能的改善への戦略的介入

川瀬 健太郎

慢性期脳卒中患者に対するロボット支援歩行練習の効果
—ウェルウォーク導入により歩行能力及びADL改善を認めた一症例—

内科・脳神経外科 伊地知 寿



【出身大学】
大阪市立大学医学部
大阪市立大学大学院医学研究科

鹿児島市出身です。
急性期病院から心機一転、「みらい」のある職場と
信じて入職いたしました。
よろしくお願いいたします。

【専門資格等】
日本脳神経外科学会 専門医・指導医
日本医師会健康スポーツ医、日本スポーツ協会認定
スポーツドクター、医学博士

【所属学会】
日本脳神経外科学会、日本自閉スペクトラム学会

外来担当表

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	檜作家守	上野牛島	肥後園田家守	園田	中村小森園	鶴園松口	皆世家守築瀬	伊地知	中村	加藤牛島	亀澤濱田前島	亀澤濱田前島
循環器内科	檜作		肥後				皆越				亀澤	亀澤
脳神経内科			園田	園田	中村	鶴園		中村			濱田	濱田
脳神経外科							伊地知					
消化器内科	家守		家守		小森園		家守				前島(第1・第3)	前島(第1・第3)
血液内科						松口						
腫瘍内科 緩和ケア内科		上野										
心臓血管外科		牛島								牛島		
泌尿器科							築瀬					
心療内科										加藤		

(2026年4月1日現在)

職員の乳がん検診を実施しました

3月2日、4日、7日の3日間、相良病院の検診車による乳がん検診を実施しました。今回は計87名の職員が受診し、職員の費用負担はありません。

当院では、職員の健康管理と早期発見の重要性を踏まえ、大切な命を守るため、検診を受けてほしいという中村理事の想いから、乳がん検診を実施しています。受診した職員からは、「仕事の合間にスムーズに受診できてありがたい」といった声も聞かれました。

乳がんは、日本人女性のがん罹患数で第1位とされていますが、早期に発見して治療を行えば、9割以上のケースで治療が期待できるといわれています。

今回のマンモグラフィ検査では、「乳腺タイプ」も知ることができました。乳腺タイプとは病名ではなく体質の特徴を表すもので、①脂肪



相良病院の乳がん検診車

性 ②乳腺散在 ③不均一高濃度 ④極めて高濃度の4つに分かれるそうです。

自分の乳腺のタイプを知ることで、今後の検査の受け方や健康管理の参考になります。今回の検査で自分のタイプを知ることができたのは大きな安心につながり、自分の体を知る良い機会となりました。

7F病棟と託児所で「絵本専門士による絵本を楽しむ会」開催



絵本を楽しむ会が開かれた7F病棟(上)と託児所

7F病棟と託児所で、絵本専門士による「絵本を楽しむ会」を開催しました。

絵本を通して、入院患者様には安らぎのひとときを、幼児には豊かな心を育む時間を提供することを目的に実施しました。

7F病棟では、「まどのむこうのくだものなあに？」という絵本が読まれ、窓から少し見える果物を当てる場面で患者様から「みかん！」「よだれがでる～」と、楽しそうな声が上がりました。

託児所では、手遊びのあと、「わにわにくん」シリーズの絵本に、子どもたちは大興奮、楽しい時間となりました。



講師の紹介 もりゆかりさん

国立青少年教育振興機構認定の絵本専門士で、始良市の絵本専門店「えほん もりのなか」店主。鹿児島市の「かもいけみらいの森絵本図書館」には、開業準備から携わり、現在も選書や読み聞かせなど担当されています。この他、かごしまメルヘン館や鹿児島市文化情報センターなどでも講師をつとめるなど、幅広く活躍されています。

今回ご紹介するのはこの3人



事務部
人事課
永井 博久 さん

採用や相談対応などを通して、働きやすい環境づくりに努めています。「職員の笑顔が患者様の笑顔につながる」をモットーに、チーム医療が円滑に進むよう、支えます。お勤めスポットは、東市来町の遠見番山展望台です。壮大な眺めが心を和ませてくれます。

次は5F病棟一押し
看護師松本さんです。



病棟
看護師
松本 龍輝 さん

看護師は患者様と接する機会が多いため、日々のご様子を丁寧に観察し、小さな変化にも気付けるよう心がけています。安心していただけるよう、ゆとりと笑顔を大切にしています。休日は友人と温泉やカラオケ、ドライブを楽しみ、心身をリフレッシュしています。

次は毎日成長中、野島さんです。



リハビリテーション部
理学療法士
野島 渚 さん

人の役に立ちたい思いからこの職業を選び、患者様から感謝の言葉をいただく瞬間にやりがいを感じています。趣味は音楽鑑賞で、出勤前に気分に合わせてさまざまなジャンルを楽しんでいます。学生時代に働いていた始良市の「ゆいまーる」がおすすめのお店で、沖縄そばともずくの天ぷらが好物です。

栄養科

春野菜のレンチン茶碗蒸し風

春野菜の力で筋肉と骨を守ろう



管理栄養士の「リハ栄養メモ」

春キャベツは筋肉の回復を助けるビタミンCと骨を守るビタミンKが豊富です。スナップエンドウのビタミンCと、卵・豆腐の良質なたんぱく質が合わさり、筋肉と骨の健康をやさしく支える春の恵みを活かした一品です。

◇作り方(所要時間：約10分)◇

◇材料(1人分)

- ・卵：1個
- ・絹ごし豆腐：50g
- ・だし(顆粒でOK)：小さじ1/2
- ・春キャベツ：1～2枚
- ・スナップエンドウ：2～3本
- ・塩：少々
- ・しょうゆ：少々

- 1.卵を溶きほぐし、豆腐とだしを加えて混ぜる。塩・しょうゆで軽く味付け。
- 2.春キャベツは細切り、スナップエンドウは長さを2～3等分にする。耐熱カップに入れる。
- 3.1の卵豆腐液を注ぐ。ラップをふんわりかけ、電子レンジ600Wで3～4分加熱。
- 4.固まったら完成。柔らかい場合は、様子を見ながらさらに30秒ずつ追加加熱。

回復期リハ病棟 | 実績DATA

※2025年7月～2025年12月

在宅復帰率

92.6%

※全国平均：78.4%

在院日数

84.3日

※全国平均：66.0日

実績指数

47.0

※全国平均：46.6

退院患者割合

※疾患別内訳※

廃用症候群
13.5%

運動器疾患
38.5%

脳血管疾患
47.9%

アウトカム実績

退院時FIM※①

95.9

※全国平均：89.4

入院時FIM※①

60.2

※全国平均：64.5

※① FIM(機能的自立度評価表):
日常生活動作の能力を評価したもの
点数が高いほど自立度が高くなる

※② FIM利得:
日常生活動作能力の改善値を示す
(退院時FIM-入院時FIM=FIM利得)

FIM利得※②

35.7

※全国平均：24.8

アクセス



◆ 鹿児島中央駅から車10分

◆ 荒田八幡（市電・バス）から徒歩3分

お車で来院される際は、病院東側にある
駐車場をご利用ください。
ただ、駐車場台数に限りがありますので、
ご来院の際は、できるだけ公共交通機関
（市電・バス）をご利用ください。
ご協力をお願いいたします。



〒890-0056 鹿児島市下荒田2丁目1番25号

TEL: 099-252-2525 FAX: 099-252-2530

平日月曜日から金曜日と土曜日も診療しています。9:00～12:30/14:00～17:30